

D-10 近郊建売住宅の住まい方について (その3 現住宅への満足度)

○坂本久子 (近畿大女子短大) 岡 俊江 (九州大)

井上洋子 (精華女子短大) 久保加津代 (香蘭女子短大)

目的 いわゆる郊外庭付一戸建住宅に入居した人々が、彼等の住宅をそこに選定した理由は何か、またその住宅および住宅地についてどのように感じているのかを満足度を通して明らかにし、それと共に住まい方との関連をとらえる手がかりを得ようとするものである。

方法 前二報に同じ。

結果 1) 現在の住宅に対しては半数強の人々が満足しているが、どちらでもない人が約2.5割、不満足な人も約2割おり、満足度を通しての現住宅に対する評価はそれほど高いとはいえない。

2) 現住宅に対して満足している点については、「自然環境」「日照条件」を8割前後の人々があげているが、「医療施設、購買施設などの周囲の施設の整備」については、8割の人々が不満な点としている。

3) 現在の住宅を選んだ理由は、半数強の人々が「持家がほしかった」からであり、現住宅に対して満足と感じている人は、「住宅が気に入った」「環境がよい」の理由で住宅を購入している人々に多く、不満と感じている人々は「価格が手ごろである」「建売業者への安心感」という住宅に対する消極的理由の人々に多くみられる。

4) 住宅の間取りの型との関係では、K=DL型よりDK=L型の方に満足層が多くみられ、また居間に続く続き間の有無との関係では、続き間がある方に満足層が多くみられる傾向にある。